

社内向け生成AI“αGeAI”の運用開始

社内業務効率化と知的生産性向上を目指して

キーワード 生成AI

AAS-DX 推進部 あじさか 鱒坂 ひろあき 宏亮・小川 おがわ 優恵・山崎 ゆきえ やまざき こうじ 廣二

はじめに

現代の企業活動において、DX 関連施策の導入とその実施は年々その重要性を増しています。特に生成 AI の分野では、文章の作成や要約などの業務効率化やデータ解析による品質向上など、さまざまなタスクへの効果が期待できます。アジア航測の中期経営計画 2026 においても DX 関連の施策“AAS-DX”が根幹を成しており、生成 AI が重要な役割を果たすと期待されています(図1 赤枠)。

一方で、入力したデータが生成 AI 自体の学習に利用されることによる外部漏洩のリスクが活用の妨げとなっています。そこで当社では、セキュアな環境で動作可能な社内専用の生成 AI “αGeAI”^{*1} を導入しました。

ここではその概要と現時点での利用事例についてご紹介します。

αGeAI とは

αGeAI は、マイクロソフトの Azure OpenAI Service^{*2} を基盤として構築されています。Azure OpenAI Service は、入力したデータが生成 AI の学習に活用されることでデータの外部漏洩に繋がるという懸念を防ぐセキュリティ対策が強化されており、企業内での利用に適しています。

αGeAI は、コーディングの知識を有していなくても直感的に操作ができるような画面構成となっています。また、Retrieval-Augmented Generation^{*3} (以降 RAG という) の機能も搭載されており、特定分野の「専門家」を仮想的に作る事が可能です。

導入のねらい

αGeAI は、アジア航測の中期経営計画 2026 で掲げる AAS-DX5 年計画において定められている 3 要素『意識改革』『仕組みづくり』『技術革新』の推進を目指しています。そのためには会社全体として今まで以上に知的生産性の高い業務へのリソース配分が必要不可欠となります。そこで、

日々の業務を図2のように4つの領域に分類し、第1、3、4領域の業務を自動化・省力化することで第2領域『知的生産性の高い領域』へのリソース配分を実現するためツールの一つとなることをαGeAI 導入のねらいとしました。



図1 中期経営計画2026イメージ図



図2 日々業務の4象限

利用状況

2024年9月時点において、全役職員の内、約60%(940名)の社員がαGeAIを利用しています。利用事例は大きく4つに分類されます。

① 文章作成支援

利用する目的に応じた最適な文章を、キーワード、提出先、文字数などの条件を提示すると素案を作成します。既存文章の文字校正も可能です。本技術報においても、一部の論文はαGeAIを査読に活用し、査読にかかる時間の短縮を図っています。

② 文書要約

論文や議事録などの文字情報が多いデータを要約します。

③ プログラム作成支援

目的を提示した上でソースコード作成や自作のソースコードの添削など、プログラミングにおけるソースコードの作成支援を行います。

④ 課題対策の検討

提示された主旨や意図、目的に合わせた各種施策の作成支援を行います。他社事例やエビデンスなどの参考資料を呼び出すことも可能です。

αGeAI 利用上の注意点

生産性向上や知的生産性の高い業務へのリソース配分を目的としたαGeAI ですが、利用するにあたっては注意が必要です。まず、αGeAI の生成データに含まれる第三者が著作権を有しているデータや登録商標、意匠の利用・生成については各種権利の侵害に該当する恐れがあります。個人情報を入力して利用する際にも、目的外利用とならないよう留意が必要です。

さらにインプットするデータだけではなく、生成されたデータの活用においても注意が必要です。生成 AI は確率論に

基づいて返答する性質を持っているので不正確な場合があります。最終的なアウトプットの利用判断は人間が行う必要があります。生成 AI は『支援』が主な役割であることを忘れてはいけません。

こうした注意事項をとりまとめた『AzureOpenAI (生成AI) 利用ガイドライン』をαGeAI へのログイン時に全役職員の閲覧できる仕組みを作り、継続的な注意喚起を実施しています。

今後の展開

現時点でのαGeAI は、図3のような画面構成となっており、既存の学習モデルを活用したテキスト生成が主な機能ですが、今後は画像生成機能の導入も検討しています。また、RAG 機能を利用し、公開されているもの、あるいは当社独自の既存マニュアルなどの資料を読み込ませ、業務に活用することを試行しています。これにより資料閲覧にかかる時間の削減や新たな資料の作成の効率化が可能です。

αGeAI の活用においては、ユーザの入力(プロンプト)の質が結果に大きく影響することがわかっています。そのた

め、優れたプロンプトや活用方法を社員間で共有し、評価する仕組みも作りました。個々の知識を『共有』することで組織としての学習が促され、ひいては会社全体の知的生産性向上に繋がります。

今後は、利用者からのフィードバックをシステムの改善や新機能として追加することで、社員のニーズに応え、業務効率化を一層推進できるツールの一つとしてαGeAI の性能を最適化させていきます。



図3 αGeAI画面構成



図4 αGeAIロゴ

^{*1} αGeAIは、リソースAI (株式会社KMSがAzure Open AI Serviceを使用した生成AIソフト) を当社用にカスタマイズしたものです。なお、αGeAIのロゴはアジア航測の商標登録です。
^{*2} Azure OpenAI Serviceは、マイクロソフトが提供する多様なクラウドサービスを利用できる「Microsoft Azure」において、OpenAI社が開発・提供する多くのAIモデルをセキュアな環境下で利用可能なマネージドサービス。
^{*3} 既存の文章データ等を取り込み、そのデータを基にテキストデータ生成する技術。